

ちとせ ふれあいニュース

発行元 千歳町自治会
発行責任者 廣瀬 義直
千歳町千歳垣根一ノ三
TEL 二三・〇六八二

千歳の農業とまちづくり 自治会長 廣瀬 義直

「平成最後の」という冠言葉を耳にして久しいのですが、平成三十年度末を控え、いよいよそれが現実となってきました。

度重なる自然災害に見舞われた年度ではありましたが、来たる二十一日には年度最終の自治委員会議を開催し、事業や会計等の議案審議と役員の改選をすることとなっています。

皆様には自治会活動に対して、温かいご理解ご協力を頂きましたことにより感謝申し上げます。

さて、二月に入り、「農業を考える」懇談会が、千歳町営農組合及び「農業委員会」の呼びかけにより交流会が相次いで開催されました。農業の振興は



まちづくりの根幹に関わることから、私も自治会長の立場でいずれの会にも出させて頂きました。

日本の農業という大きな課題ですが、高齢化が進む千

歳町の農業課題はより身近で待ったなしの課題であることは出席者全員の共通した認識でした。そうした中で、南北に長い千歳町では、集落ごとにそれぞれ工夫された取り組みが始まっていることが報告されました。

毘沙門での菜ばなの里づくり、江島里のビール麦と小豆栽培、北谷の農事組合法人による営農活動、出雲の農作業受託事業等々が展開されており、また、専業農家として頑張る方や新規就農者の方からも現状報告と合わせ、今後の抱負も力強く語られました。

厳しい環境の中でも、前向きな取り組みが着実に続けられていることが分かりました。

自治会では、宝船まつりでの直売、千歳への移住促進、市街化調整区域の見直し、「農山村教育民泊」への協力な

どを進め、農業振興へつなげるべく取り組みんでいます。

上記の新聞記事は「丹波産キヌヒカリ3年連続『特A』」の見出しで、農家の誇りと報じています。



千歳町人権研修会

二月九日(土)

今年のテーマは「高齢者の尊厳・人権」です。

今後誰もが直面する課題であり、千歳町が高齢者はもとより認知症高齢者にとつてやさしい地域になることを願って計画されました。

講師は、高齢者支援・介護の最前線で活躍されている篠地域包括支援センター長の松本義則さんで、「地域で支える認知症」と題して認知症を通じた地域づくりについて、隣組の役割にも触れながら講演していただきました。

(編集部)



千歳駐在所 安全・安心ステーション

二月十六日(土)

千歳町自治会館において総会と研修会が開催されました。

総会ではステーションの取り組みとして駐在所管内の防犯情報の共有や今後の活動のため、千歳・河原林両町の安全情勢の説明がありました。

また、交通課講師による「楽しい交通安全教室」が実施されました。

その後、千歳・馬路駐在員による防犯啓発のための楽しいコンサートがありました。

(編集部)

